

- 会長挨拶：薮田和夫氏
- 総会・懇親会便り
- 電子情報フロンティア学科近況
- 教職員・学生の活躍
- ソフトウェア開発の潮流
- 会員の近況・思い出



会長挨拶

薮田和夫（昭和27年卒）

平成14年度に、会長の大役をお引き受けして以来、早いもので6年が経過致します。この間、諸先生、諸先輩の意思を引き継ぎ、役員一同一丸となって、学科の発展への一層の寄与と会員相互の一層のコミュニケーション強化を目指した諸施策を実行してきましたが、これも会員の皆様のご提言と平素のご尽力の賜物と感謝しております。本会は電気工学科創立50周年を期に

平成19年9月 No.15
 〒221-8686
 横浜市神奈川区六角橋3-27-1
 神奈川大学工学部
 電気電子情報工学科同窓会
 TEL:045-481-5661 (大学代表)
 FAX:045-491-7915 (大学代表)
 E-mail: dousoukai@or.tv
<http://www.dousoukai.or.tv>
 学科ホームページ
<http://www.ee.kanagawa-u.ac.jp>
 大学ホームページ
<http://www.kanagawa-u.ac.jp>

総会・懇親会便り

平成18年度総会・懇親会は10月15日(日)に開催されました。総会では、(1)学科と同窓会の連係を密にするための役員改正について、学科主任を同窓会学内副会長に選任すること、(2)同窓会会員相互の

コミュニケーションの発展を図るための委員制度の強化、同窓会ホームページの活用、(3)学科創立70周年記念行事の開催時期について、大学の創立80周年記念行事と重なるため、1年前倒しして、来年10月(2008年10月)、大学のホームカミングデーに合わせて開催すること、(4)創立70周年記念行事に向けて、同窓会役員およびクラス委員を含む記念行事実行委員会を設置すること等が承認されました。総会に引き続き開催された懇親会には薮田同窓会会長を齊藤副会長はじめ、多数の会員の方、許先生、遠藤先生、大野先生をはじめ、多数の先生方が参加され、終始和やかな歓談が行われました。なお、今年度の総会・懇親会は10月21日(日)に開催されます。2008年10月開催予定の学科創立70周年記念行事の内容等も話題となります。会員の皆様方の多数のご参加をお待ちしております。

本学科専門プログラムのJABEE継続認定について

平成17年5月に日本技術者教育認定機構(JABEE)より認定された本学科の「電気電子情報工学専門プログラム」は、昨年10月、同機構による中間審査を受け、今年5月、2008年度までの継続が正式に認定されました。これは、本学科の専門プログラムが「電気・電子・情報通信およびその関連分野」で国際水準にあること、またプログラムの継続的改善が適切に行われていることが認められたこととなります。なお、平成21年10月頃に次回の継続審査を予定しています。プログラムの継続的改善のためには、各方面の方々のご意見を

反映させることが必要となります。皆様のご支援をお願い申し上げます。
チップ上に広がる人間環境系を支える知能集積技術

当学科の研究プロジェクト「チップ上に広がる人間環境系を支える知能集積技術」は2004年文部科学省私立大学研究高度化推進事業にハイテクリサーチセンター研究プロジェクトの設置申請を行い、プロジェクト名「チップ上に広がる人間環境系を支える知能集積技術」として2004年度4月に採択されました。二十一世紀の高度化社会では電脳空間あるいはサイバー世界とも呼ばれる人工的な人間環境系が成熟していくと予測されています。さらに高速なネットワーク環境の構築が進んでおり、それがさらに発展していくことで、たとえば家庭内の家電、機会や社会システムが相互にリンクし、それらの情報伝達、制御を人間が容易に行える高度なネットワーク社会への道が開けつつあります。それらのネットワークシステムと人を相互につながるインターフェイス構築の技術開発も期待されています。本研究プロジェクトはこのような期待にこたえることを目的とし、集積化インテリジェント機能チップという微細な平面上に投影させた人間環境系を構築するための「知能集積技術」をハードとソフトの両面から研究・開発し、それらの集約を目指したものです。3年目となる前年度は中間審査が行われ、極めて優秀であるとの評価を受けております。ハイテク

リサーチセンタープロジェクト(目)は5年間にわたって5億円以上の研究費の援助を受けることになっており、この3年間で多数の論文が学会誌に受理、掲載されました。今後多くの研究成果を世に提示していきます。HRCの副テーマである「人間の生活・文化の向上を微細チップから実現する - Intelligence & Integration」が示すように、本プロジェクトでは、人間を取り巻く社会における利便性、安全性など、人間が文化・生活を営む上で欠くことのできない様々な事項および事物に対して、技術を集約、集積化することにより豊かな社会を構築する事を主要な目的としています。目では年に数回の研究発表会と毎年2月末にシンポジウムを開催しております。シンポジウムは何方でも参加自由ですので、是非、卒業生の皆様も参加して、現在の学科の研究に対する姿勢・熱意を伺いいただきたいと思っております。またできればお互いに研究成果を発表し、知識と成果を共有したいと考えております。電力・エネルギー供給といった人の生活基盤を支える技術から、豊かな人間環境系を構築する知能集積技術開発へと発展する本学科のプロジェクトを是非ご覧下さい。詳細は目(目)のURL: <http://www.ku-hrc.jp/>

学科組織報告(退官教員の紹介)

本学科教授辻野次郎丸先生が本年度2008年3月をもって定年退職されます。辻野次郎丸先生は、1967年3月東京工業大学理工学研究科の博士後期過程を修了され、同年4月本学電気工学科に就任されました。以来、本学で40年に渡って教鞭をとられました。研究面においては、超音波

平成18年度前期神奈川大学電気電子情報工学科同窓会収支(案)
2005年10月1日~2006年9月30日

収入		支出	
会費	511000	通信費	
2000円×242名		総会案内・会報郵送費	605160
3000円×2名		(6730通)	
5000円×1名		印刷費	216825
6000円×1名		会報(7000枚)	
10000円×1名		封筒(7000枚)	
預金利息(4月1日)	157	ハガキ(7000枚)	
懇親会黒字	24222	総会案内(7000枚)	
		会費納入一覧印刷7000枚	
		振替用紙印刷7000枚	
平成17年繰越金	3789472	郵便料金受取人払い	20900
		322通×65円	
		レンタルサーバー代	8820
		会費	0
		次年度繰越金	3473146
収入合計	4324851	支出合計	4324851
収入合計-支出合計		0	

平成18年後期/19年前期度神奈川大学電気電子情報工学科同窓会予算(案)
平成18年10月1日から平成19年9月30日まで

収入		支出	
会費	460000	通信費	32000
預金利息(4月1日)	160	印刷費	5000
		会費	2000
		レンタルサーバー代	8820
		DPE(懇親会/会報用)	2000
		事務用品	2000
平成18年繰越金	3473146	次年度繰越金	3881486
収入合計	3933306	支出合計	3933306
収入合計-支出合計		0	

溶解、超音波モーターの研究に精力的に従事され、多くの秀でた研究成果を発表してきました。さらに長らくIEEE-IEPCの委員として、海外でも活躍されています。また、その間も学科主任を長く勤められ、さらに大学院委員長、教学評議員を歴任し、本学の教育面にも力を入られております。研究、教育の両面において本学科ならびに工学部、ひいては大学全体の発展に多大なる貢献をなされました。研究室の卒業生も今年で学期を数え、多くの優秀な生徒を世に輩出しております。辻野次郎丸先生の最終講義は2008年1月を予定しております。また、最終講義以外にも、長年研究を報告してきた電子情報通信学会超音波研究会(12月13日開催、至東京工業大学すずかけ台キャンパス)において特別講演を行われます。ご興味のある方はぜひご参加下さい。最終講義の詳しい日程は決まり次第、学科目(目)に掲載されますのでご覧になって下さい。

教職員、学生の活躍紹介

本学科では教職員一同が研究ならびに教育に一丸となって取り組んでおります。その成果もあり、大学内外で数多くの表彰を受けております。近年の受賞例を下記に示します。

教職員の活躍

○2006年12月1日 電子情報通信学会2006年画像符号化シンポジウム(PCST 2006)フロンティア賞受賞(齊藤隆弘教授、小松隆助手)「正則化法による超解像(PeGコーディング)」の研究発表が、新しい研究領域を開拓した先導

的研究と評価されました。PCSJ/IMPSのホームページは<http://www.ee.kagu.tus.ac.jp/pcsj-imps/2006/award.html>

○2006年5月27日 2006年度日本超音波医学会奨励賞(土屋健伸助手)土屋健伸助手(現助教)が日本超音波医学会奨励賞を受賞しました。受賞内容は、「超音波照射時の生体組織内部の温度値の数値解析と実測結果の比較」です。なお、土屋助手は、本学科の卒業生(平成5年度学部卒、平成7年度修士修了)です。

○2006年5月25日海洋音響学会2005年度論文賞遠藤信行教授、土屋健伸助手(現助教)が海洋音響学会2005年度論文賞を受賞しました。受賞内容は「並列演算EDFD法による浅海音波伝搬解析」です。研究成果がこちらに掲載されています。: http://www.nasj.jp/kokai/tsuchiyaak/EDFD_model.html

○2006年5月20日 映像情報メディア学会フェロー(Fellow)の称号授与(齊藤隆弘教授) 映像情報メディア学会第52回通常総会にて、齊藤隆弘教授に映像情報メディア学会フェロー(Fellow)の称号が授与されました。これは、映像情報メディアに関する分野における学術研究、技術開発の指導や教育における貢献が顕著であると評価されたものです。

在学生の活躍

○内藤史貴(遠藤研究室修士1年)(国交省関東地方整備局、旧港空研) 2007年度海洋音響学会研究発表会ベス

トポスター賞「貝が付着した鋼管杭の板厚計測法の開発〜送受波方式の検討〜」2007年5月25日

○川畑順裕(豊嶋研究室学部4年、2007年卒)第12回電子情報通信学会東京支部学生会 奨励賞「時系列の多重周期成分を用いたニューラルネットワークによる株価予測」2006年5月19日

○石井勇樹(齊藤研究室修士1年、現修士2年)映像情報メディア学会2006年次大会・学生優秀発表賞「乗算型骨格」テクスチャ分離の拡張とその画像処理への応用」2006年12月12日

○石井勇樹(齊藤研究室修士1年、現修士2年)電子情報通信学会2006年映像メディア処理シンポジウム(IMMS 2006)学生論文賞「乗算型骨格」テクスチャ分離の雑音耐性と画像雑音除去への応用」2006年12月1日

○中山雅雄(豊嶋研究室学部4年、現修士1年)情報処理技術者試験/テクニカルエンジニア(エンベデッドシステム)試験合格2996年6月13日

○小谷光史(豊嶋研究室学部4年、現修士2年)第11回電子情報通信学会東京支部学生会 奨励賞「ソフトウェア記述からハードウェア記述への自動変換のための演算回路最適化」2006年5月27日

○倉林佑(豊嶋研究室学部4年、2006年卒)第11回電子情報通信学会東京支部学生会 奨励賞「フuzzy推論を用いたトレーディングシステムに関する研究」2006年5月27日

まだまだ多くの受賞を受けておりますが、紙面の都合上、数年度のみ掲載しております。前年度以前にご興味のある方は学科用

をご覧ください。

ソフトウェア開発の潮流

電気工学科 昭和41年卒 土肥健一

昭和41年(1966年)3月に電気工学科を卒業してから41余年になる。この間一貫してコンピュータあるいはIT(Information Technology)と呼ばれる情報システム関係の仕事に従事してきた。IBM対抗機の開発のため国産メーカーが連合を組み海外メーカーと技術提携してメインフレーム開発に凌ぎを削った黎明期(1970年代)、その大型コンピュータを当時オイルマネーで急発展していた酷暑のイラクに輸出したプロジェクトで目の当たりにした民族・宗教の違いの根深さやイラク・イラン戦争(1980年前後)、やがてメインフレームからPC・WSなどへとダウンサイズされオープン系システムへと移行されるコンピュータアーキテクチャーの流れ、更にはインターネットの出現、急成長・急拡大したハードウェア・ソフトウェアの技術や市場への対応、先進の欧米ベンダーとのアライアンス、ITバブルの崩壊(2001年)、そして直近のソフトウェアビジネス、中国でのオフショア開発事業等々、これらは自分がITという仕事を通して経験してきた環境であり又仕事の一場面である。そして今日では、ITは日進月歩の技術革新を続けながら、社会インフラや産業システム、市民生活の隅々まで行き渡り、21世紀社会のコアテクノロジィーになっている。先日、新しく名称された「電子情報フロンティア学科同窓会」の集まりで、斎藤先生や猪野先生から学科名称を変更した狙いや効果をお聞きする機会があった。「情報」という言葉の響きが

もたらす不人気や日本の「もの作り」の危うさを危惧されてもおられた。どうもまだ入試募集段階でも在学生の間でも期待する効果は出ていないらしい。これまでの電気工学というクラシックなハード的なイメージの名称から、エレクトロニクス技術の進歩がもたらす情報化時代にふさわしいカリキュラムへの移行や学科名称の変更は、今の段階では学生に受けていないということらしい。単純に「情報」という言葉や「ソフトウェア」という業務から学生は3Kをイメージし、現実に長時間勤務で社員を使う企業側の問題も大きいという指摘もあった。確かに企業のITやソフトウェアという業種・業務がもつ構造的問題を否定することは出来ないが、一方で「ソフトウェア」という仕事の重要性、魅力をよく説明し理解してもらうことは大切なことと思う。前置きが長くなったが、これまでの企業における長い経験や、まさに今進行している産業構造変革の流れをよく説明することによって、新しい「電子情報フロンティア学科」の学生諸君の参考に資することが出来、少しでも希望を与えることが出来ればと思いついた次第である。さて「もの作り日本」の「もの」はこれまでの物理的存在のものから、今後はソフトウェアという論理的形成体になっていく。そしてこれまでのコンピュータ上で動いていたソフトウェアは、今後はあらゆる機器・装置に組込まれてその機能を構成する重要な役割を果たすことになる。そのためのソフトウェア開発は、量的に益々膨大化し、質的にも益々高度化・複雑化し、世界規模で質的・量的リソースを必要とする事態になっている。

・例えば携帯端末を1機種、新しく製作する為には100億円の開発費が必要であると言われていた。その100億円に占めるコストの80%はソフトウェア開発費である。携帯端末という「もの」の作りは、ソフトウェア制作そのものであり、ソフトウェア技術なくして「もの作り日本」はありえない。[「gas as No.1」はありえない。]

・電気・通信・水道・輸送・金融などの社会インフラ・システムは、ソフトウェアで手順化されたコンピュータ制御によってはじめて安全・安心に動作する。同様に企業における様々な業務も、ソフトウェアで指示されたコンピュータによって処理されている。そのコンピュータを動かすツールであったソフトウェアが、今度は市民生活の隅々に至る機器や装置に組み込まれ、それらの機能や性能を決定づける重要な役割を担うことになってきた。カメラ、ビデオ、冷蔵庫、自動車、など然りである。

・社会、産業システムが膨大なソフトウェア技術に依存し成立つ構造に変わっていくなかで、膨大なソフトウェア需要への対応や産業の競争力強化等あらゆる面から日本のソフトウェア開発技術者不足問題は深刻になってきている。日本はアジアのIT市場の半分を占めるものの、毎年大学のコンピュータサイエンスやソフトウェアエンジニアリング学科が輩出する学生数は、3万人と極めて少ない。一方で中国はその数が20万人、インドでは25万人とのことである。この圧倒的な不足

問題の対策が、単純にオフショア開発などで中国、インド等に向かうとすれば、それはコアテクノロジの空洞化になりかねない。ソフトウェア開発技術者の役割の重要性がここにある。このように情報技術やソフトウェアの潮流は、本学科の学生諸君に無限の可能性と重要な役割を与え、社会・産業の担い手としての大きな期待や広くグローバルな活躍の場をもたらすものである。決して目先の小さな事象に惑わされないで、大局を展望しながら自信と愛着をもって「電子情報フロンティア学科」での勉学に勤しんで欲しい。新しい「電子情報フロンティア学科」のプレゼンスを上げ伝統を築いて欲しい。

会員の近況・思い出

電気工学科平成13年卒の馳川です。

現在、富士電機システムズ(株)にて勤務しております。業務内容としては、産業向け発電設備(コージェネ、常用・非常用発電設備)の見積・企画・受注支援等のエンジニアリング業務、及びバイオマス発電設備の製品化に取組んでいます。今年で入社5年目ですが、まだまだ仕事に慣れず、ひたすら勉強の日々を過ごしています。最近はお出張で中部地区にすることが多く、バイオマス発電というところで現場の何とも言えない臭いに耐えながら仕事しています。今後も大学時代に学んだ知識、そして卒業研究で鍛えられた忍耐力を仕事に私生活に活かし、充実した日々を過ごしたいと考えます。(これからも)指導の程宜しくお願いいたします。

○昭和38年卒の同窓会 5月8日(火)に昭和38年卒の有志17名が幹事(平野莞・内田巳千独)の基で、新しくなった

神奈川大学及び電気工学科(現在は電子情報フロンティア学科)の見学を行ないました。その当時は、木造の校舎が残っていたらしく、昔の校舎跡はきれいな芝生になっていると話されていました。新電気の校舎はグラウンドの近くに移動しています。大学見学後、横浜の山下公園前のホテル・メルパルクに集合し、約44年前の在学時の思い出話で盛り上がりました。このときの学生は約200名の卒業生がおられました。



これはそのときの集合写真です。もし、同窓会新聞を見て連絡を取りたい場合、同窓会のアドレスに御一報いただければ、幹事にお伝えいたします(文責:穴田)。

○昭和44年卒・鈴木誠研究室の同窓会 5月19日(土)に昭和44年、鈴木誠研究室の有志8名が卒業後初めて大学を訪問いたしました。その当時は4号館地下1階



が研究室でした。まだエアコンなど設置されていなかった。夏休み中には汗だくで卒業研究を行なっていました。大学見学後、六角橋の商店街の居酒屋で昔の思い出話、団塊世代の苦労話などで盛り上がりました。そのときの集合写真です。

写真後列左より(桐井登美夫)(水澤浩)(高杉陽一)(穴田哲夫)(河村匡)(原澤栄志)、写真前列左より(島崎雅博)(山田肇)(福島貞一)(小野文八)

訃報 謹んでお悔やみ申し上げます。

- 遠藤嘉雄殿(昭和16年卒)
- 岡田鎮郎殿(昭和16年卒)
- 篠原信雄殿(昭和17年卒)
- 清水保殿(昭和17年卒)
- 岡田純殿(昭和20年卒)
- 谷田彦殿(昭和20年卒)
- 小熊健殿(昭和20年卒)
- 原田富雄殿(昭和22年卒)
- 武藤敬吉殿(昭和22年卒)
- 多賀谷哲雄殿(昭和22年卒)
- 奈良重男殿(昭和27年卒)
- 羽場護殿(昭和32年卒)
- 江沢徳殿(昭和36年卒)
- 川村己殿(昭和38年卒)
- 西村宏殿(昭和38年卒)
- 伊藤建二殿(昭和39年卒)
- 今江泰殿(昭和47年卒)